



教育目標

「自学、信愛、努力を基本とし、人間らしい生き方を求める生徒を育てる」

# NANBU



学校だより第7号

水見市立南部中学校

令和2年11月4日

## 歌声によせて ～「コーラスフェスティバル」より～

校長 扇谷 孝代

6月、長い臨時休校が開けてすぐの頃は、本年度は「コーラスフェスティバル」は実施できないかもしれないと危惧していました。感染症拡大防止対策において、歌唱活動そのものが「リスクが高い活動」の中に含まれていたからです。音楽の授業では歌唱を避け、鑑賞や器楽、あるいは創作といったあまり声を発しなくてもできる活動を取り上げざるを得ませんでした。

しかし幸いなことに、本市における感染レベルは「感染者の散発的発生及び医療提供体制に特段の支障がない段階」であり、文部科学省が作成した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル ～『学校の新しい生活様式』～」においては、一番低い「レベル1」を保つことができていました。それによると、「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」は、「換気、身体的距離の確保や手洗い等の感染症対策を行った上で実施することを検討する」となっていました。

ここから、「どうやって実施するか？」についての検討が始まりました。

合唱練習はマスク着用の上、横1m、縦2m程度の身体的距離を確保して行うこと、本番も十分な間隔を保った隊形とすること、時間的な余裕がないことから、課題曲は全学年「校歌」とすること等、まず、感染症対策を最優先に企画案がまとまりました。そして、次は自由曲です。各学年の発達の段階を考慮し、初めて本格的な合唱に取り組む1学年は、この時期どうしても混声三部合唱の美しい響きを体験してほしいという願いから、「夢の世界を」を取り上げることにしました。2、3学年は、より多彩な表現技能を身に付けるとともに、合唱を通して感情を表現することの醍醐味を体験してほしいという願いの下、クラスごとの選曲としました。

こうしてスタートした「コーラスフェスティバル」への取組でしたが、その道のりは生徒にとってかなり困難なものだったようです。まず、「歌うこと」に対して心を開放する必要がありました。1学期間、いえ、昨年度の3月から「歌うこと」をしてこなかったのです。その上、周りとの身体的距離を確保しているため、自分の声ばかりが耳に入ります。生徒にとってはまず、「声をしっかり出すこと」が課題となりました。さらに、1学年は初めてのパート練習でそのやり方が分からない。2学年は声変わりの真っ最中で、特に男声部がまとまらない。3学年は、高度な曲想表現をするための表現技能がなかなか追い付いてこない……。例年なら、音楽科の授業で1学期のうちに丁寧に指導を進めるところですが、本年度はぶっつけ本番のようなものです。特にクラスごとの練習時間は、悪戦苦闘している様子があちこちで見られました。

ですが、生徒は頑張りました。本番を迎えてみれば、どの学年も緊張感の中、堂々と自分たちの合唱を披露していました。出来映えもさることながら、そこに至るまでのクラスとしての努力が伝わる合唱でした。そんな生徒に、講評では次のように話しました。

「クラスのメンバーは、合唱団の団員のように、特別な訓練を受けている人ばかりが集まっているわけではありません。はっきり言うと、歌が得意な人もいれば、不得意な人もいるのです。それでも、そんな一人一人が本気で歌い合わせると、何とも言われぬ一体感が漂い、聴く人の心にぐっと響いてくるのです。こうした合唱が聴けるのは、もしかすると学校だけかもしれません。」

本校の運営方針の一つに『困難や失敗を乗り越える経験』や『誰かのためになる活動』等を通して互いに認め励まし合う機会を大切に、自己有用感を育むがあります。「コーラスフェスティバル」への取組は、生徒にとって貴重な経験の一つとなったことと思います。なにより、今年の秋も生徒の歌声が校舎いっぱい響いたことが、とてもうれしく思われました。

## 南部中学校のこの頃

### ○「コーラスフェスティバル」リーダー研修会を開催しました

9月29日（火）、文化委員会が「コーラスフェスティバル」に向けてのリーダー研修会を開催しました。これは、合唱練習を通してクラスが一つのまとまりとして成長することができるよう、自分たちで主体的に練習を進めるための手順や指導方法等について研修するものです。企画委員、指揮者、伴奏者、パートリーダー等が集い、実際に校歌を歌うなどして真剣に学んでいました。この研修会に参加したメンバーが中心となって、クラスごとの練習が進められました。



<間隔をあけて校歌を歌ってみる>

### ○後期生徒会がスタートしました

10月12日（月）に行われた立会演説会・信任投票の結果、2年1組の前優花さんが後期生徒会長として信任されました。前さんの目標は、新しいことや生徒会活動に積極的に挑戦し、南部中学校を「活気のある、楽しい学校」にすることです。そのための公約として、「他学年交流」「あいさつ運動」「いつでも・どこでもSTUDY」を掲げました。後期生徒会役員と協力しながら、ぜひ、実現させてほしいものです。



<朝の選挙活動の様子>



<後期生徒会役員勢ぞろい>

また、10月28日（水）には生徒会役員任命式が、30日（金）には第1回常任委員会が行われました。いよいよ2年生が生徒会のリーダーとして、全校生徒の中心となって活動する時期がやってきました。今後の活躍が楽しみです。

### ○学習発表会を開催しました

本年度は感染症対策のため、保護者の皆様によるバザーを取りやめとさせていただきます。そこで「学校祭」とは呼ばず、「学習発表会」という名称で、10月24日（土）、保護者、ご家族の皆様方に生徒の日頃の学習の成果をご覧ください機会を設けました。学年別、時間を区切ったの観覧となり、大変ご不便をおかけしましたが、快くご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

当日は、アリーナに美術科や技術・家庭科の授業で制作した作品を展示したほか、前日の23日（金）に行われた「コーラスフェスティバル」に向けて各クラスが取り組んだ合唱曲を披露しました。ご観覧の皆様からは、「感動した」「胸がいっぱいになった」「世の中で音楽会がめっきり少なくなっている今、よい音楽を聴けた」など、温かい言葉をたくさんいただきました。



<作品展示>



<合唱披露>

## 学校からのお知らせとお願い

### ○資源回収にご協力いただき、ありがとうございました

10月18日（日）、好天に恵まれ、本年度も無事に資源回収を行うことができました。当日は早朝から保護者の皆様をはじめ多くの方々にご協力いただきました。お陰様をもちまして、**283,470円**の収益を得ることができました。今後の教育活動に有益に使わせていただきたいと思います。



<中西商店での作業の様子>

### ○熊鈴を身に付けるようお声かけをお願いします

新聞等でも報道があったとおり、今年の秋は、氷見市において例年になくらい頻繁に熊が目撃されたり痕跡が発見されたりしています。本校付近でも10月中旬と下旬に熊が目撃されました。現在は通常に近い形での登下校にもどしておりますが、はっきりと駆除されたという情報がないことから、今後も用心が必要と思われます。

学校では生徒に、当分の間、登下校の際、また、帰宅してからも早朝や暗くなってから外出しなければならない際は、熊鈴を身に付けるよう指導しております。ご家庭でも一声かけていただきますようお願いいたします。